

第38回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和3年7月16日（金） 17：30～18：30

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦	川崎市健康安全研究所 所長（WEB参加）
金井 忠男	埼玉県医師会 会長
川名 明彦	防衛医科大学校 教授（WEB参加）
近藤 嘉	日本労働組合総連合会埼玉県連合会会長（WEB参加）
坂木 晴世	国際医療福祉大学大学院 准教授（WEB参加）
讚井 将満	自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長（WEB参加）
竹田 晋浩	かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長（WEB参加）
松田 久美子	埼玉県看護協会 会長
三村 喜宏	埼玉県商工会連合会会長（WEB参加）

4. 県側参加者

大野 元裕	知事
安藤 宏	危機管理防災部長（WEB参加）
山崎 達也	福祉部長（WEB参加）
関本 建二	保健医療部長
星 永進	保健医療部 参事
本多 麻夫	保健医療部 参事
板東 博之	産業労働部長（WEB参加）
岸本 剛	衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価について

- ワクチンの行き渡っていない若い世代が拡散のドライビングフォースになっている可能性がある。（川名委員）
- 現時点では、デルタ株が重症化の度合いや致死率にまで影響を与えていないものの、感染者の母数の増加に伴い、重症者数も増加する恐れがある。（岡部委員）
- 全体としての重症化率や致死率は下がったとしても、中年層の人工呼吸患者が圧倒的に増加しており、重症病床を持つ医療機関の負担は全く変わっていない。（竹田委員）

イ 埼玉県における「まん延防止等重点措置」等に基づく協力要請について

- 状況に応じて早めに手を打つという意味でも、措置区域を拡大せざるを得ない状況である。（岡部委員）
- 知事の朝霞台駅でのPR活動など、アプローチを行った上での措置区域の拡大は順序を踏んでいるため、納得感を得られるのではないか。（松田委員）
- 感染者が大幅に増えていることから、区域の拡大はやむを得ないものの、事業者が事業の継続意欲を失わないよう支援を継続する必要がある。（三村委員）
- 感染者数の増え方を見ると、対象区域を拡大することは適切である。既に知事が注意喚起の会見をしており、ここで措置区域を拡大するという流れも問題ない。（近藤委員）
- 患者数が増えている地域に絞り、まん延防止等重点措置をかけるのは理解を得られるのではないか。（川名委員）
- 措置区域の拡大には賛成であるが、診療・検査医療機関の公表や自宅宿泊療養所の健康観察など、県として可能な取り組みを改めて県民に周知すべき。（金井委員）
- まん延防止等重点措置における措置区域の拡大について同意する。（委

員一同)

【県の対応】

- 県内の感染状況及び委員の意見を踏まえ、まん延防止等重点措置等について決定した。(7月16日開催 第60回新型コロナウイルス対策本部会議において決定。)